

令和 5 年 度

十日町地域広域事務組合一般会計・特別会計
決算審査意見書

十日町地域広域事務組合監査委員

令和5年度十日町地域広域事務組合
一般会計・特別会計 決算審査意見書

1 審査の対象

- (1) 令和5年度十日町地域広域事務組合一般会計歳入歳出決算
- (2) 令和5年度十日町地域広域事務組合家畜指導診療所特別会計歳入歳出決算
- (3) 財産に関する調書
- (4) 上記に関する証書類

2 審査の実施日

令和6年8月22日（木）

3 審査の方法

審査に付された各会計歳入歳出決算及び財産に関する調書並びに付属書類について関係帳簿及び証書類を照査検算するとともに、関係職員の説明を聴取して予算の執行状況について調査した。

4 審査の結果（適否等）

各会計の決算及び関係書類等は、いずれも法令及び会計諸規定に準拠して作成されており、計数も正確で、その表示等も適正と認められた。

審査の概要及び意見は、次のとおりである。

5 総括

決算総括表（数値は実質収支に関する調書より）

（単位：千円）

区 分		一般会計	家畜指導診療所 特別会計	計
歳入総額	A	1,859,163	47,090	1,906,253
歳出総額	B	1,800,928	45,892	1,846,820
歳入歳出差引額（A－B）	C	58,235	1,198	59,433
翌年度へ繰り越すべき財源	D	0	0	0
実質収支（C－D）	E	58,235	1,198	59,433
前年度実質収支	F	43,498	7,006	50,504
単年度実質収支（E－F）	G	14,737	△5,808	8,929

令和5年度の一般会計と家畜指導診療所特別会計を合わせた決算総額は、歳入19億625万3千円、歳出18億4,682万円、歳入歳出差引額は5,943万3千円となった。翌年度へ繰り越すべき財源はなく、実質収支は5,943万3千円の黒字決算である。

なお、前年度の実質収支額を差し引いた単年度実質収支額は、一般会計では1,473万円7千円の黒字、特別会計は580万8千円の赤字となり、2会計合計で892万9千円の黒字となった。

6 一般会計

(1) 歳入

（単位：円・％）

区 分		予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比
令和5年度		1,833,077,000	1,859,162,924	1,859,162,924	101.4	100.0
令和4年度		1,738,922,000	1,749,745,390	1,749,745,390	100.6	100.0
増減	金額	94,155,000	109,417,534	109,417,534	—	—
	率	5.4	6.3	6.3	—	—

収入済額は18億5,916万3千円で、前年度に比べ1億941万8千円増加し、6.3%上昇した。主なものは、南分署庁舎改修工事に係る組合債（1億940万円）である。

1 款 分担金及び負担金

(単位:円・%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比
令和5年度	1,619,049,000	1,619,049,000	1,619,049,000	100.0	100.0
令和4年度	1,678,557,000	1,678,557,000	1,678,557,000	100.0	100.0
増減	金額	△59,508,000	△59,508,000	—	—
	率	△3.5	△3.5	—	—

収入済額は16億1,904万9千円で、前年度に比べ5,950万8千円(3.5%)減少した。消防団員報酬や給与改定による職員人件費の増、燃料費の高騰や修繕料等の経常経費の増などに対し、「ニューにいがた里創プラン推進事業 十日町ステージ・キナーレ」の償還が完了したことによる公債費や事業費(通信指令センター機器更新)の減が大きかったものである。

2 款 使用料及び手数料

(単位:円・%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比
令和5年度	1,166,000	899,300	899,300	77.1	100.0
令和4年度	1,166,000	1,413,200	1,413,200	121.2	100.0
増減	金額	0	△513,900	—	—
	率	0.0	△36.4	—	—

収入済額は89万9千円で、前年度に比べ51万4千円(36.4%)減少した。

県支出金(廃款)

(単位:円・%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比
令和5年度	0	0	0	0	0
令和4年度	2,135,000	2,135,000	2,135,000	100.0	100.0
増減	金額	△2,135,000	0	—	—
	率	△100.0	—	—	—

「十日町ステージ・キナーレ」の償還完了により、償還費補助金が皆減となった。

3 款 財産収入

(単位:円・%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比
令和 5 年度	51,000	1,952,150	1,952,150	3827.7	100.0
令和 4 年度	1,301,000	1,720,598	1,720,598	132.3	100.0
増減	金額	△1,250,000	231,552	—	—
	率	△96.1	13.5	—	—

収入済額は195万2千円で、前年度に比べ23万2千円(13.5%)増加した。
主なものは、更新により廃車となった車両の売払い収入である。

4 款 寄附金

(単位:円・%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比
令和 5 年度	60,000	50,000	50,000	83.3	100.0
令和 4 年度	60,000	50,000	50,000	83.3	100.0
増減	金額	0	0	—	—
	率	0	0	—	—

収入済額は5万円で、前年度と同額となった。

5 款 繰越金

(単位:円・%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比
令和 5 年度	19,641,000	43,497,542	43,497,542	221.5	100.0
令和 4 年度	27,414,000	28,967,818	28,967,818	105.7	100.0
増減	金額	△7,773,000	14,529,724	—	—
	率	△28.4	50.2	—	—

収入済額は4,349万8千円で、前年度に比べ1,453万円(50.2%)増加した。

6 款 諸収入

(単位:円・%)

区 分		予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比
令和5年度		13,110,000	13,714,932	13,714,932	104.6	100.0
令和4年度		2,789,000	11,401,774	11,401,774	408.8	100.0
増減	金額	10,321,000	2,313,158	2,313,158	—	—
	率	370.1	20.3	20.3	—	—

収入済額は1,371万5千円で、前年度に比べ231万3千円(20.3%)増加した。

主なものは、地域防災組織育成助成事業助成金、緊急消防援助隊派遣に係る補助金である。

7 款 組合債

(単位:円・%)

区 分		予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比
令和5年度		180,000,000	180,000,000	180,000,000	100.0	100.0
令和4年度		25,500,000	25,500,000	25,500,000	100.0	100.0
増減	金額	154,500,000	154,500,000	154,500,000	—	—
	率	605.9	605.9	605.9	—	—

収入済額は1億8,000万円で、前年度に比べ1億5,450万円(605.9%)増加した。

主なものは、南分署庁舎改修工事(1億940万円)と本部庁舎建設に係る借換債(5,810万円)である。

(2) 歳出

(単位:円・%)

区 分	予算現額	支出済額	執行率	翌年度繰越額	不用額	
令和5年度	1,833,077,000	1,800,927,515	98.2	0	32,149,485	
令和4年度	1,738,922,000	1,706,247,848	98.1	0	32,674,152	
増減	金額	94,155,000	94,679,667	—	0	△524,667
	率	5.4	5.5	0.1	0	△1.6

支出済額は18億92万8千円で、前年度に比べ9,468万円(5.5%)増加した。

増加した主なものは、消防団員報酬及び職員の給与改定による人件費、修繕料等の経常経費と南分署庁舎改修工事による事業費である。

一般会計の用途別経費の決算状況

(単位:千円・%)

区 分	令和5年度		令和4年度		前年度対比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
人件費	1,065,790	59.2	1,012,377	59.3	53,413	△0.1
物件費・維持補修費・扶助費・積立金	164,240	9.1	153,217	9.0	11,023	0.1
補助費	63,855	3.5	62,800	3.7	1,055	△0.2
普通建設事業費	149,369	8.3	100,480	5.9	48,889	2.4
公債費	357,674	19.9	377,374	22.1	△19,700	△2.2
計	1,800,928	100.0	1,706,248	100.0	94,680	0

人件費5,341万3千円の増は、消防団員報酬及び職員の給与改定によるものである。

普通建設事業費の増は、主に南分署庁舎改修工事(1億2,447万4千円)によるものであるが、前年度事業の高機能消防指令センター機器一部更新工事(6,023万4千円)や耐震性貯水槽新設工事(1,217万5千円)との差引により、4,900万円ほどの増にとどまっている。

物件費等の増は、燃料費の高騰や修繕料等の経常経費、コロナ収束により消防団事業が通常開催できたことによる費用弁償の増などが主な要因である。

公債費は、本部庁舎建設に係る用地取得及び設計委託の借換分の増(5,810万円)があったものの、前年度に償還が完了した十日町ステージ「キナーレ」分の減(7,450万円)が大きかったことにより、1,970万円の減となっている。

1 款 議会費

(単位:円・%)

区 分	予算現額	支出済額	執行率	翌年度繰越額	不用額	
令和5年度	513,000	477,811	93.1	0	35,189	
令和4年度	502,000	470,818	93.8	0	31,182	
増減	金額	11,000	6,993	—	0	4,007
	率	2.2	1.5	△0.7	—	12.9

支出済額は47万8千円で、前年度に比べ7千円(1.5%)増加した。
議会費の主なものは、議員報酬及び費用弁償である。

2 款 総務費

(単位:円・%)

区 分	予算現額	支出済額	執行率	翌年度繰越額	不用額	
令和5年度	30,215,000	29,142,280	96.4	0	1,072,720	
令和4年度	27,377,000	26,205,568	95.7	0	1,171,432	
増減	金額	2,838,000	2,936,712	—	0	△98,712
	率	10.4	11.2	0.7	—	△8.4

支出済額は2,914万2千円で、前年度に比べ293万7千円(11.2%)増加した。
主なものは、財務会計システムの更新や組合発足50周年記念事業に係る経費である。

3 款 消防費

(単位:円・%)

区 分	予算現額	支出済額	執行率	翌年度繰越額	不用額	
令和5年度	1,443,529,000	1,413,633,767	97.9	0	29,895,233	
令和4年度	1,332,479,000	1,302,197,179	97.7	0	30,281,821	
増減	金額	111,050,000	111,436,588	—	0	△386,588
	率	8.3	8.6	0.2	0	△1.3

支出済額は14億1,363万4千円で、前年度に比べ1億1,143万7千円(8.6%)増加した。

主なものは、常備、非常備消防費における職員及び消防団員の人件費、消防施設費における南分署庁舎改修工事費である。

4 款 公債費

(単位:円・%)

区 分	予算現額	支出済額	執行率	翌年度繰越額	不用額	
令和5年度	357,820,000	357,673,657	99.9	0	146,343	
令和4年度	377,564,000	377,374,283	99.9	0	189,717	
増減	金額	△19,744,000	△19,700,626	—	0	△43,374
	率	△5.2	△5.2	0.0	—	△22.9

支出済額は3億5,767万4千円で、前年度に比べ1,970万1千円(5.2%)減少した。

本部庁舎建設に係る用地取得及び設計委託の借換分(5,810万円)が増加したが、前年度に償還が完了した十日町ステージ「キナーレ」分(7,450万円)が減少したことによる差額が大きかったものである。

5 款 予備費

(単位:円・%)

区 分	予算現額	充用額	充用率
令和5年度	1,000,000	0	0.0
令和4年度	1,000,000	0	0.0
増減	金額	0	0
	率	0	—

予備費からの充用はなかった。

7 家畜指導診療所特別会計

(1) 歳入

(単位:円・%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比	
令和5年度	47,462,000	47,090,034	47,090,034	99.2	100.0	
令和4年度	44,860,000	51,127,778	51,127,778	114.0	100.0	
増減	金額	2,602,000	△4,037,744	△4,037,744	—	—
	率	5.8	△7.9	△7.9	—	—

収入済額は4,709万円で、前年度に比べ403万8千円(7.9%)減少した。
減少した主なものは、手数料(293万8千円)である。

1 款 分担金及び負担金

(単位:円・%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比	
令和5年度	27,232,000	27,232,000	27,232,000	100.0	100.0	
令和4年度	27,240,000	27,240,000	27,240,000	100.0	100.0	
増減	金額	△8,000	△8,000	△8,000	—	—
	率	△0.0	△0.0	△0.0	—	—

収入済額は2,723万2千円で、前年度とほぼ同額である。

2 款 使用料及び手数料

(単位:円・%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比	
令和5年度	12,870,000	10,313,020	10,313,020	80.1	100.0	
令和4年度	12,672,000	13,250,980	13,250,980	104.6	100.0	
増減	金額	198,000	△2,937,960	△2,937,960	—	—
	率	1.6	△22.2	△22.2	—	—

収入済額は1,031万3千円で、前年度に比べ293万8千円(22.2%)減少した。
主なものは、手数料収入の減である。畜産農家の廃業等による飼養頭数の減少、従来、獣医師に限られていた豚熱ワクチン接種が農家でも可能となったことが原因である。

3款 繰越金

(単位:円・%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比	
令和5年度	4,958,000	7,006,061	7,006,061	141.3	100.0	
令和4年度	2,560,000	8,147,795	8,147,795	318.3	100.0	
増減	金額	2,398,000	△1,141,734	△1,141,734	—	—
	率	93.7	△14.0	△14.0	—	—

収入済額は700万6千円で、前年度に比べ114万2千円(14.0%)減少した。

4款 諸収入

(単位:円・%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比	
令和5年度	2,402,000	2,538,953	2,538,953	105.7	100.0	
令和4年度	2,388,000	2,489,003	2,489,003	104.2	100.0	
増減	金額	14,000	49,950	49,950	—	—
	率	0.6	2.0	2.0	—	—

収入済額は253万9千円で、前年度に比べ5万円(2.0%)増加した。

(2) 歳出

(単位:円・%)

区 分	予算現額	支出済額	執行率	翌年度繰越額	不用額	
令和5年度	47,462,000	45,892,121	96.7	0	1,569,879	
令和4年度	44,860,000	44,121,717	98.4	0	738,283	
増減	金額	2,602,000	1,770,404	—	0	831,596
	率	5.8	4.0	△1.5	—	112.6

支出済額 4,589 万 2 千円で、前年度に比べ 177 万円 (4.0%) 増加した。

増加した主なものは備品購入費で、化学分析装置等 (230 万 7 千円) の医療機器購入によるものである。

特別会計の用途別経費の決算状況

(単位:千円・%)

区 分	令和5年度		令和4年度		前年度対比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
人件費	34,229	74.6	34,138	77.4	△213	0.2
物件費・維持補修費・扶助費・積立金	11,064	24.1	9,252	20.9	△221	△0.3
補助費	599	1.3	732	1.7	49	0.1
普通建設事業費	0	0	0	0	0	0
公債費	0	0	0	0	0	0
計	45,892	100.0	44,122	100.0	△385	0

物件費 (備品購入費) の増加以外は、金額及び支出額全体に対する割合とも前年度とほぼ同じであった。

1 款 家畜指導診療所費

(単位:円・%)

区 分	予算現額	支出済額	執行率	翌年度繰越額	不用額	
令和5年度	47,362,000	45,892,121	96.9	0	1,469,879	
令和4年度	44,760,000	44,121,717	98.6	0	638,283	
増減	金額	2,602,000	1,770,404	—	0	831,596
	率	5.8	4.0	△1.7	—	130.3

支出済額は4,589万2千円で、前年度に比べ177万円(4.0%)増加した。

主な支出は、人件費(3,453千円)と医薬材料費を主とした需用費(629万5千円)、備品購入費(230万7千円)である。

2 款 予備費

(単位:円・%)

区 分	予算現額	充用額	充用率
令和5年度	100,000	0	0.0
令和4年度	100,000	0	0.0
増減	金額	0	0
	率	0	—

予備費からの充用はなかった。

8 基金

(単位:円)

区 分	令和4年度末現在高	増減高	令和5年度末現在高
消防施設整備基金	602,336	50,150	652,486

一般会計予算で5万円(主に寄附金)を消防施設整備基金へ積み立てた。

9 まとめ

令和5年度一般会計の決算状況は、歳入総額 18 億 5,916 万円、歳出総額 18 億 93 万円であった。前年度に比べ、歳入が 1 億 942 万円、歳出が 9,468 万円で、ともに増加しているが、これは2年ぶりのことである。

主な理由は、南分署改修工事による事業費の増及び人事院勧告による職員の給与改定と消防団員の報酬改定による人件費の増である。

南分署改修工事では、外壁改修のほか、感染症対策として仮眠室の個室化、二重サッシへの改修や照明のLED化などが行われた。施設の長寿命化や省エネ化が図られたことは有意義であり、また今回の改修によって、南分署への女性職員の配置が可能となったことも大きな成果であった。

他にもしづみ分署の水道量水器を減径し、経費削減を図ったことは大いに評価できる。施設管理における経費削減は重要課題である。新たな手法を研究しながら、今後も取り組んでいただきたい。

消防団員の年額報酬の改定では、班長が 8,000 円、団員が 14,500 円のアップとなった。これが退団者減少の歯止めとなれば、団員確保に寄与するものと期待する。

消防団員に支払う費用弁償の不用額が多い点については、出初式や演習などの消防団事業への参加者減少が要因の一つのことだが、引き続き、実施回数や対象者の見直し、事業内容の再検討を進め、団員の負担軽減を図ることを望む。


家畜指導診療所の決算状況は、歳入総額 4,709 万円、歳出総額 4,589 万円で、前年度に比べ、歳入が 404 万円の減、歳出が 177 万円の増となった。

歳入減の主な理由は、農家の廃業等による飼養頭数の減少と、従来、獣医師に限られていた豚熱ワクチン接種が農家でも可能となったことによる手数料収入の減であり、この状況はこれからも続いて行くと予想されるが、地域唯一の家畜指導診療所としての役割を果たしていただきたい。

最後に、新型コロナが「5類」に移行して日常が戻り始めた令和5年度であるが、光熱水費をはじめとした幅広い分野での値上げが続き、組合の財政運営も少なからぬ影響を受けたことであろう。加えて、救急出動件数の高止まりといった行政需要の増加もあり、業務遂行上もコロナ禍を経た社会の変化を実感する一年であったと推察する。

今後も引き続き、地域住民の安全、安心のため、職員研修等の機会を生かしつつ、個々のスキルアップとともに組織としての対応力向上に期待したい。

令和6年 9 月 3 日

監査委員 今出川 景 

監査委員 水落 静子 